

基本構想（文章案）

1. 将来像 ～ 笑顔を礎に、希望ある未来へ ～

【将来像】 つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上

将来像の考え方

本市では、人口減少や少子高齢化の進行、地域経済や地域コミュニティの変化など、これまでにない大きな環境変化に直面しています。

このような時代においても、地域の活力を維持し、誰もが安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

そのために大切となるのが、人と人、地域と地域、世代や分野を超えた「つながり」です。多様な主体が支え合い、連携しながら、それぞれの力を生かすことで、新たな価値や可能性が生まれます。

進化のストーリー

これまで大切にしてきた「あふれる笑顔」と人と地域のつながりを礎に、時代の変化を前向きに捉え、新たな挑戦によって未来を切り拓くまちへ

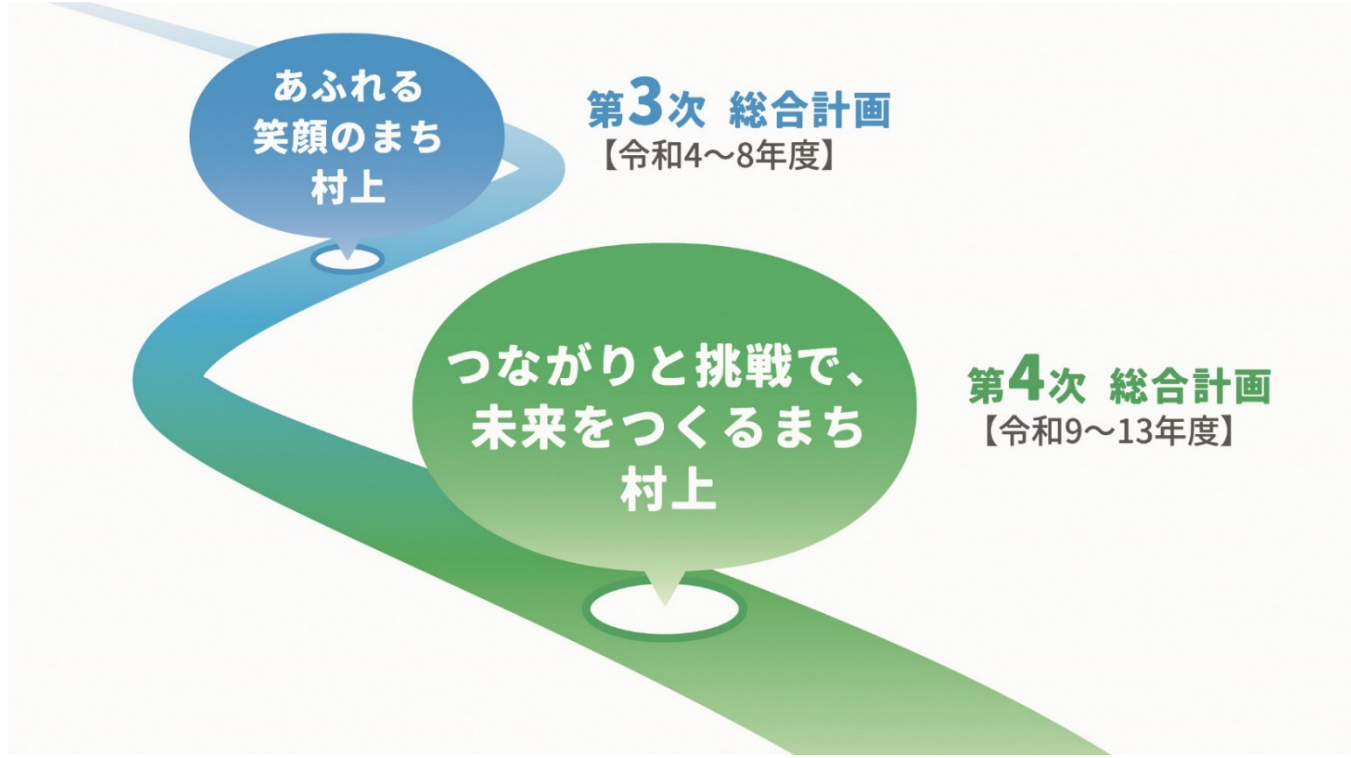
将来像に込めた想い

「つながり」には、人と人、地域と地域、世代や分野を超えて支え合い、連携するという想いが込められています。

「挑戦」には、時代の変化を前向きに捉え、新たな価値や可能性を切り拓く想いが込められています。

「つながりと挑戦で、未来をつくるまち」は、人と地域の力を結集し、希望ある未来をともに創り上げていく理想のまちを表しています。

イメージイラスト（案）



基本構想（文章案）

2. 基本理念 ～ ともに創り 育み 広げていく 未来へ ～

基本理念とその意味

基本理念の3つの要素「まちづくりのエンジン」

創る	育む	広げる
新たな価値・仕組み・賑わい・未来を創る	人・地域・産業・誇りを育む	つながり・交流・連携を広げる 未来へつなげる
- 地域の資源の価値を高める - 新たな産業を生み出す - 未来につながる仕組みを創る	- 子どもと若者を育てる - 地域の産業を育てる - 誇りと愛着を育む	- 地域内外の交流を広げる - 連携を広げる - 共創の輪を広げる

この3要素を進めることにより、物事を前に進める力や持続させていく力を高めます。

基本理念の考え方

まちづくりの基本理念は、本市のまちづくりを進めていくうえで、市民一人ひとりと行政がそれぞれの立場でともに大切にしなければならない基本的かつすべてに共通した考え方を示したものです。

第4次村上市総合計画においては、第3次村上市総合計画で掲げたまちづくりの基本理念を引き継ぎながら、「創る」「育む」「広げる」の3つの要素に、つながりや共創、新たな価値を生み出す視点を加え、これからの時代に合わせてその意味を深化させます。これらを、あらゆる場面に共通して必要な考え方として位置付け、持続可能なまちづくりを進めていくことを表現しています。

イメージイラスト（案）



3. 基本目標 ～ 村上の未来を描く設計図 ～

基本目標の考え方

基本目標は、本市が目指す将来像を実現するために、まちづくりを進める上で大切にする5つの柱となる方向性です。

市民・団体・企業・行政など、あらゆる主体が連携・協働しながら、各分野の取組を推進し、「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」の実現を目指します。

1. 子育てと健康のまち
2. 豊かで安心なまち
3. 魅力ある賑わいのまち
4. 人が輝く郷育のまち
5. 多様性が広がるまち

イメージイラスト（案）



基本構想（文章案）

基本目標

1

子育てと健康のまち
を目指します

誰もが孤立することなく地域で支え合い、こころも体も健康で、安心して子どもを産み育てながら、生涯を通じて自分らしく暮らせるまちをつくります。

政策分野ごとの目標	
 子育て	こどもの権利が擁護され、だれもが安心して産み育て、その幸せが未来へと続くまちを目指します。
 健康・医療	地域医療体制を維持し、市民が主体的にこころと体の健康づくりに取り組めるまちを目指します。
 高齢者福祉	高齢になっても認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会を目指します。
 障がい者福祉	障がいの有無にかかわらず、誰もが自分らしく安心して暮らし、地域に参加できる支え合いのまちを目指します。
 地域福祉	だれも孤立せずみんなで助け合い、途切れのない支援で安心して子育てができるまちを目指します。

基本目標

2

豊かで安心なまち
を目指します

安全で強靱な生活基盤を整え、自然と調和した快適で豊かな暮らしを支え、安心して住み続けられるまちを目指します。

政策分野ごとの目標

 防災	災害に強く、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指します。
 消防・救急	消防・救急体制の強化による安全・安心なまちづくりを目指します。
 防犯・交通安全	犯罪や交通事故のない安全・安心なまちづくりを目指します。
 環境・エネルギー	豊かな自然が保たれ、脱炭素社会の実現により、美しい郷土を次世代に引き継いでいきます。
 生活衛生	循環型社会による、快適で暮らしやすいまちづくりを目指します。
 上下水道	持続可能で強靱な上下水道ライフラインを目指します。
 河川・海岸	治水施設と市民の防災力が共働し、安全・安心が確保されるまちを目指します。
 道路	安全で効率的な道路ネットワークが、地域の活力を支えるまちを目指します。
 公共交通	快適で、持続可能な移動環境を有するまちづくりを目指します。
 市街地・景観	歴史と伝統を守りながら、快適に暮らせるまちづくりを目指します。
 住環境	快適な住環境を維持し、住み続けられるまちを目指します。

基本構想（文章案）

基本目標

3

魅力ある賑わいのまち

を目指します

地域資源や産業の力を生かし、
活力と賑わいにあふれるまちをつくとともに、
市内経済の好循環を目指します。

政策分野ごとの目標

	農業	資源や環境を守りながら、未来につなげる持続的な農業づくりを目指します。
	林業	森林資源の循環利用により、林業の活性化と脱炭素社会に貢献する森づくりを目指します。
	水産業	他業種と連携し、水産業の付加価値と収益を高め、持続可能な水産業を目指します。
	商工業	デジタルと伝統が共生し、若者が夢を叶えられる商工業のまちづくりを目指します。
	観光	地域の魅力を活かし、多様な旅行者が滞在し、市民とともに賑わいを創出する観光地を目指します。
	港	港を核とした賑わいと産業が共存し、安全・安心が確保されるまちを目指します。
	就労雇用	誰もが地元で夢を形にし、挑戦と活気があふれるまちづくりを目指します。

基本目標

4

人が輝く郷育のまち

を目指します

あらゆる世代が学び、文化やスポーツに親しみ、
学びや経験を地域に生かしながら、
郷土への誇りと生きがいを育むまちを目指します。

政策分野ごとの目標

	学校教育	子どもたちを育む学校教育の充実したまちを目指します。
	生涯学習	市民が気軽に集い、生涯を通じて多様な学びと成果を活かせるまちを目指します。
	文化芸術	文化芸術に親しみ、歴史や文化財の魅力あふれるまちを目指します。
	スポーツ	誰もがスポーツを楽しみ、心身ともに健康で、いきいきと輝く生涯スポーツのまちを目指します。

基本構想（文章案）

基本目標

5

多様性が広がるまち

を目指します

多様な人が互いを認め合い、地域と行政がつながり、デジタルを生かしながら、誰もが自分らしく活躍できる持続可能なまちを目指します。

政策分野ごとの目標



共生社会

誰もが自分らしく暮らせるまちを目指します。



地域づくり

地域の活力を感じるまちを目指します。



広報広聴

情報のアクセシビリティが確保され、行政と市民が双方向の対話を通じて共に歩むまちを目指します。



デジタル

安心・安全に暮らせるまち「スマートむらかみ」を実現します。



行政運営

きめ細やかな行政サービスと効率的な行財政運営で、持続可能な未来を築くまちを目指します。

4. 土地利用構想 ～ 将来の土地利用の方向性 ～

土地利用の考え方

本市は、広大な市域の大部分を森林が占めており、北部、南部、海岸部の居住地域や山間集落が点在しています。人口減少や高齢化が進む中においても、市民が安心して暮らし続けられる環境を維持するため、地域の特性や生活圏に応じた機能の配置と、地域間を結ぶネットワークの確保を土地利用の基本的な考え方とします。

人口減少社会においては、生活に必要な機能を一定の地域へ集約することが重要である一方、市域全体の暮らしを維持していくことも必要です。そのため、本市では、「集約」と「生活維持」の両立を基本とし、それぞれの地域が担う役割を明確にしながら、持続可能なまちづくりを進めます。

この考え方に基づき、行政、商業、広域的なサービス機能などが集積する村上地域の市街地圏域を「中心拠点」と位置付け、本市全体の暮らしや活動を支える中核として、より高度な都市機能の充実を図ります。

また、中心拠点を補完し、周辺地域の日常生活を支える地区を「地域拠点」と位置付け、生活に必要なサービス機能の維持・充実を図るとともに、周辺地域からも利用しやすい生活利便性の確保を目指します。

さらに、中心拠点から距離があり、生活サービスの維持が特に重要となる地域を「北部生活圏」と位置付け、支所や駅、医療・福祉機関など、日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図り、地域で安心して暮らし続けられる生活環境を支えます。

また、整備が進む高速道路は、市内を南北に結ぶ高速移動軸として、人やモノの流れを活性化させる重要な役割を担います。高速道路を活用した市内木材の運搬や木質バイオマス発電、駅周辺の再整備、洋上風力発電、道の駅などの取組を結び付け、新たな産業や交流の創出を図りながら、地域活力の向上につなげます。

さらに、山間集落をはじめとする各地域においては、中心拠点、地域拠点及び北部生活圏とのつながりを維持することが暮らしを支える重要な基盤となります。公共交通の維持・確保に加え、デジタル技術の活用によって移動負担を軽減し、必要なサービスへアクセスできる環境づくりを進めます。

豊かな自然環境と地域特性を生かしながら、市民一人ひとりが安心して暮らし続けることができる持続可能な村上市を目指します。

基本構想（文章案）

まちの未来の地勢図 [人と地域をつなぐまちの骨格]



中心拠点

行政、商業、広域的なサービスなどの都市機能を集積し、本市全体の暮らしや活動を支える中核拠点として機能の充実を図ります。



地域拠点

中心拠点を補完する拠点として、日常生活を支えるサービス機能の維持・充実を図るとともに、周辺地域の生活利便性を支えます。



北部生活圏

中心拠点から距離のある地域において、日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図り、地域の特性を生かしながら、安心して暮らし続けられる生活環境を支えます。



高速移動軸

整備が進む高速道路は、市内を南北に結ぶ高速移動軸として、人やモノの流れを活性化させ、北部と南部の交流や産業活動を支えます。



生活ネットワーク

山間集落と拠点を結ぶ公共交通を維持・確保し、自家用車を運転できない高齢者などの移動手段を確保します。

..... 土地利用を支える考え方

産業・人やモノの流れの活性化

地域資源や高速道路網を活かし、産業振興を図るとともに、北部と南部を結ぶ移動の利便性向上や拠点間の連携強化を通じて、地域活力の向上を図ります。

デジタルの活用

デジタル技術の活用により、物理的な移動を減らし、日常生活に必要なサービスが利用できる環境を目指します。



「集約」と「生活維持」の両立により、

豊かな自然とともに、持続可能な村上市をつくります。



基本構想（文章案）

5. 将来に備える重点視点

～ 人口減少時代を乗り越え、持続可能な村上市をつくるために ～

4つの重点視点

人口減少への適応	人づくり 担い手確保	デジタル活用 効率化	共創の連携
人口減少を前提に、将来のまちの姿を描き、柔軟に適応する	次世代を担う人材を育て、多様な主体が活躍できる環境をつくる	デジタル技術を活用し、暮らしや行政サービスの質を高める	市民・地域・企業・行政が力を合わせ、分野を超えて課題解決に取り組む
人口減少を見据えた土地利用・施設配置の最適化 公共施設の集約・再編・維持管理の効率化 地域の特性に応じた生活基盤の維持	子育て・教育環境の充実による若者の定着 多様な働き方の推進と雇用の創出 地域活動や産業を支える人材の育成・確保	デジタル技術の活用による市民サービスの向上 移動・医療・教育などの利便性向上 各種業務の効率化	市民・地域・企業・行政との協働の推進 地域資源の活用と価値の共創

重点視点の考え方

人口減少・少子高齢化の進行、担い手不足や財政制約の高まりなど、社会環境の変化は今後さらに加速します。

このような時代においても、市民一人ひとりが安心して暮らし続け、地域の活力を未来へとつないでいくためには、分野を越えて共通する視点を持ち、限られた資源を効果的に活用することが不可欠です。

本市では、5つの基本目標に基づく取組を、以下の4つの重点視点を横断的に取り入れながら推進します。

イメージイラスト（案）

